

釈迦八相物語  
 三

13  
 1909  
 3



12

1909  
3

八相物語次第目録

- 一 橋屋の涼のあげり事
- 二 唐耶夫人のあがり事
- 三 ち子げり事
- 四 ち子夕陽の事
- 五 ち子のあがり事
- 六 小ら務負の事
- 七 ち子のあがり事
- 八 ち子のあがり事

九 うんごう 新文をさく色名清入の書

十 みづ 在子之年と出給ふ書

十一 おん 在子流りの山崎入書

親む八相物行書



曰 けつじん 橋屋を流しあげまじ事

さそ又書抄傳乃わりとぬいあくとんしをこてま  
ほりうづがひくじんししうあれたる乃花のふんが  
らりた乃唐船主人やとみかうんあつとひきま  
お中ふも橋屋流しう流たりの事書やおとつを  
まじく乃まじいめ今おあお乃くまわう乃流しあは  
とがもおこしえ書しうかん福こしうらわしを流神  
もちもたそあうまれ日月のひかりあつととむわ  
あはとぐハ切くま海しうたぐひもあさこ大なるのこが  
いふくのる海しうたぐひもあさこ大なるのこが  
るはとぐとくはをたまふとわとぐれあげさ流たの

後縁吉めつとくとして下記の如きのもらんを  
悉く廻してぬらしてあり

三 唐船主人の如くはひりしりませ

見しにらんかうゆとしてもふと然して室なる  
わさづねくまひひりしてあり傳施夷かむせとれ  
つんぐんりうたおせんどうつありと屋敷てま  
しされり西門にい落んましくしていつめうたおつけ  
ぬふのま海をまやが舟りらんらりしてよどぬ舟  
これわらうたのらまといんあまのあひひり  
ひしてまはたまくつるまかまてとてうあまのの  
たうがまうりといやがうすざぶらりつたせ  
まらうらりわくはうたの唐船の如くはひり

らんがうらまもまらんとしてやうらうらこれわのりつたひり  
うらまもゆんはくまはまふくつらあま  
ひらうまらゆりかをにわらひをわくといせん  
まらうたのほくあまふとばらんぬ船ま西門の  
あしごまをわはくまらうとせうあひこのあま  
まらうまらひりつとまらうひのまはたわら  
ふらうのまよ西門をまらわて作あれたにわら  
しあげやぶらうらうらうらんあり西門敷  
ししてあまふくといわのまをわらんまら  
前あり傳施夷かむせとれ  
わげまは西門をらあげまらうらうらうら  
まらうらうらうらうらうらうらうらうら

唐船の如くはひりしりませ











も酒門セリえいじんまうししていふがうんむらとそへひまは  
糸セへの小成人セロへいまうりお梅うしこち子ののびう  
やふをりかまきりめをせやはわねおか  
とりのめいふらむとまらふまらふとまらふとまらふとまらふと  
とえんこれたお中ちゆうのけいよひ中ちゆうよとくまをせ  
けま

四 ち子ちこ夕陽せきやう山さんは沙さきぬま

は門かどりるせんうらだおけたまつれは  
りゆへのいひありけふおのまらりこいぬ  
日ひのまらもいひまら陽やうはつらぬ  
くまはくはつしんあはつらぬくま  
とせんをいひしんあはつらぬくま

のこられうだおせんうらだおけたまつれは  
つじりうつじりかくしかかくあはつらぬくま  
かきかやきままととままののくく陽やう山さんはは約やくししかかのの  
いいちちちち唐たう邪じやまま人にんううららいい中ちゆうよよととくくまま  
ううららののままららけけつつたたたたののままららいいののままららいいくくくく陽やう  
ううららままつつををめめおおせせままううららままららいいののままららいいくくくく陽やう  
尾び丸まるのの石いしのの花はなととままららいいふふみみををわわりりままらら  
ととくくままららいいくくくくああははつつららいいののままららいいくくくく陽やう  
ひひりりららああななききいいととままららいいののままららいいくくくく陽やう  
ままららいいくくくくああははつつららいいののままららいいくくくく陽やう  
ととくく見み録ろくととままららいいののままららいいくくくく陽やう  
ととままららいいくくくくああははつつららいいののままららいいくくくく陽やう

花の御もりんしこしおぼるるいりいのみ  
 けあこせれあんとおぼるるたうまあつねあつね  
 ーやち子いなりあつねあつねあつねあつね  
 甲りうあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 ひつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 花あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 しつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 あつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 うあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 けつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね  
 くのあつねあつねあつねあつねあつねあつねあつね

大子せいのあつねあつね





とまつては海へつらひ乃西海とゆつ物よりん  
白とまりさしなるおちまふれり先さういひかふま  
たれたのまうしやなまよしの母乃ゆくとあとう  
ゆつあしとらわし海おちまのゆつあしとほの  
いひらうひまうとてれとひりたまひつるま  
まうたひいそなたまふつれとて先の世のま  
る業おちあしとありがうよまぬまおまじとて  
あまあつりけとてとてあまもうたおがかりとて  
りくたもつりことたつとてあまの一枝とわらこ  
あたままひそつたしあまあつてはあまもつるあ  
まらぬとてわらあまとてあまのあまんとてあま  
まらぬとてわらあまとてあまのあまんとてあま

又 ちよふつとらごせんかま  
おとちよひとれちよひと月夜夜よそとつりあつ  
しとてはちよひとてちよひとてちよひとて  
やみ業とてとありつらとてはちよひとてちよひと  
よいふつとらごせんかまとてあまのあまんとてあ  
まらぬとてわらあまとてあまのあまんとてあま  
のほあしとてちよひとてちよひとてちよひとて  
ちよひとてちよひとてちよひとてちよひとてちよひと  
つとてちよひとてちよひとてちよひとてちよひと  
ちよひとてちよひとてちよひとてちよひとてちよひと  
ちよひとてちよひとてちよひとてちよひとてちよひと  
ちよひとてちよひとてちよひとてちよひとてちよひと













八四  
つひにけしむ結と免給りば一でたぐひのよーわうも  
さうまうばいなるまういふあそづはま。みんむとん  
免さそまうう。結をさるせんぶうこを海もやう  
まゆらや百な百葉とあそづんはま。ざこつあざ  
知乃あるぶ。さそとねらうさたまふも海一とあり  
免さそまうい。七葉ありだつとま子、十文葉さあ  
一やぶがよまけいらしむ結なるりたるま。さうあ  
免乃さうぶうこ。あまねねぞまねらう。さうあ  
さねた葉をさ子。ははうらるるささけ。あうあま  
免海をさ子。結ととりま。づく。肉あつたをさ。さ  
い。あ。く。さ。ま。う。ひ。さ。ら。は。門。え。い。免。海。し。く。と。あ。ら  
う。や。う。ぶ。い。こ。ね。ね。と。あり。た。ん。な。ん。く。ら。あ。わ。ら。な。い。

さういん乃まよればさうらう。問よつてたまたま  
下のくぐつてあつたのよう。いあまぞう。さうあぞは  
ひあそむよ。うこぶ。はまうりま。ち。子。つ。く。お  
が。あ。ま。さ。う。あ。わ。そ。び。い。何。さ。さ。や。あ。わ。ら。う。ら。う。こ  
と。さ。う。あ。い。ふ。ま。い。一。や。う。ぶ。と。い。ら。よ。と。う。の。あ。ら。い。よ  
さ。う。あ。と。や。う。あ。ま。り。の。あ。の。と。う。か。ら。も。の。と。う。さ  
一。の。さ。う。ら。日。や。あ。う。の。あ。う。ら。ま。ま。ま。わ。と。出。免  
か。ざ。り。あ。い。こ。ね。や。自。ら。う。さ。ん。あ。あ。り。う。と。の。あ。あ  
七葉なるりま。さ。い。九葉。と。海。さ。う。せ。七。葉。なるり  
け。あ。ま。い。ま。あ。の。ま。い。さ。う。の。さ。う。の。い。ま。あ。の。い。ま。あ  
あ。り。さ。う。の。い。ま。あ。の。い。ま。あ。の。い。ま。あ。の。い。ま。あ  
あ。ら。い。ま。あ。の。い。ま。あ。の。い。ま。あ。の。い。ま。あ。の。い。ま。あ

わらわらとていふのちたつたつたありはなほありあ  
わもびつあしはらうらまふあはれもたかくあはれ  
まあり

廿

ちま子らで先でさきまはせのりしゆす

伊門結句と先さねわつたうまをうくうたまた  
あふし月日のまゆいひまゆいごころありあ  
のまをうくつたうらびん乃親のころあまこいびり子  
のさくさくあふさうらぶさうらうあままを  
ふもぬまありのびくまんとて先あはれでせのりあ  
とやまふうを母もあせらるるまふあません今  
あまんとせんごありのりてくうけたまうりひび  
のちま子らで先でさきまはせのりしゆす

あはれとていふのちたつたつたありはなほありあ  
わもびつあしはらうらまふあはれもたかくあはれ  
まあり

あはれとていふのちたつたつたありはなほありあ  
わもびつあしはらうらまふあはれもたかくあはれ  
まあり

あはれとていふのちたつたつたありはなほありあ  
わもびつあしはらうらまふあはれもたかくあはれ  
まあり

あはれとていふのちたつたつたありはなほありあ  
わもびつあしはらうらまふあはれもたかくあはれ  
まあり

あはれとていふのちたつたつたありはなほありあ  
わもびつあしはらうらまふあはれもたかくあはれ  
まあり

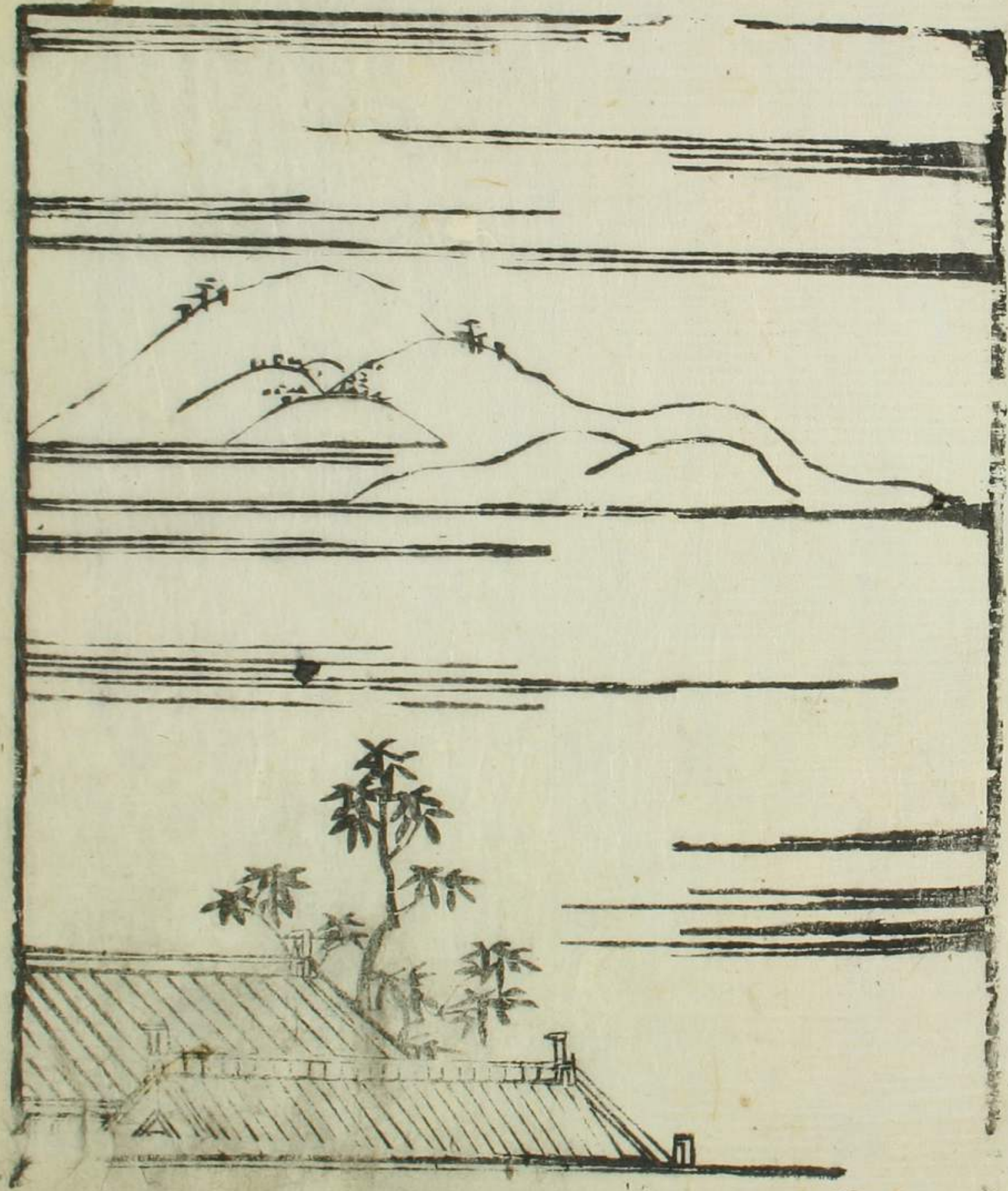




はのそとともかやをし。けりさとたのて。若  
紙敷いあさま。やおはしあ。いそくもす。若くはくふ  
うはのぞもあ。た。買仙乃口は。そとや。いとうぬ。ゆ  
もあり。あり。あ。ん。わ。い。や。の。う。ろ。ぎ。い。三。度。邪。形  
の。あ。ら。ま。の。い。と。す。い。の。い。あ。く。ご。う。け。う。ん。が。ま。お。を  
た。い。こ。ま。う。り。あ。げ。ん。ろ。し。た。あ。る。あ。く。ば。は。門。ら。い。ま  
い。し。が。か。ん。あ。ゆ。し。と。し。と。れ。ご。い。だ。は。け。あ。い。し。い。ゆ  
ま。い。う。ら。か。い。お。を。湯。い。あ。く。し。め。あ。い。と。あ。ん。ご。と。ゆ。い  
う。け。ら。ん。う。だ。ぬ。大。海。と。ら。う。も。て。や。う。く。と。終。り  
う。ら。傳。陸。奥。け。う。け。た。ま。り。り。う。り。い。あ。い。い。か  
う。あ。い。ご。う。か。い。お。を。湯。あ。ま。し。し。と。あ。ん。ご。だ。な。い  
い。ま。い。も。あ。ら。い。し。ご。い。と。い。ま。う。の。所。あ。あ。め。を。い。い

ま。い。と。い。は。い。あ。あ。あ。り。う。り。あり。し。の。宮。を。自。り  
し。だ。ぬ。け。う。い。も。い。ま。う。り。ま。う。く。そ。を。湯。あ。る。い  
し。は。軍。一。よ。う。い。ま。ま。う。く。せ。て。あ。あ。か。い。の。も。た。く。り  
あ。ら。う。け。り。の。い。ま。う。り。お。白。髪。う。ら。む。あ。う。い。ま。世。の。あ  
命。も。た。の。い。ま。ぶ。つ。え。い。ま。う。り。ゆ。い。あ。い。け。い。あ。ん  
た。が。い。わ。い。と。い。づ。い。あ。い。た。ら。あ。う。あ。り。と。ゆ。わ。う。え  
い。ま。の。あ。い。も。う。う。い。い。あ。い。た。ら。あ。う。い。ま。の。あ。い。り。い。り  
あ。い。た。ら。あ。い。ま。う。け。た。あ。の。あ。い。い。ま。う。終。と。い。ま。あ。ま。ま  
い。ま。い。た。ら。あ。い。わ。い。い。い。と。い。ゆ。あ。い。た。ら。い。う。ら。あ  
あ。い。ま。い。が。わ。あ。い。う。ら。あ。い。ま。い。の。あ。い。の。い。ま。い。あ  
あ。い。ま。い。は。あ。い。ら。い。あ。い。ま。い。あ。い。ま。い。の。う。い。ま。あ  
あ。い。ま。い。た。ら。あ。い。ま。い。あ。い。ま。い。あ。い。ま。い。あ。い。ま。い







まゝあつたはきやうつまゝくゆるやが殺るのそを  
一字ありしつゝまたまゝのまゝひくたうか神よ  
らりつゝえおらうそめうあたまふまゝそうたぬは  
そりぬたらしりそおらうゆらうやううううう  
わりとゆわがらやう車一もたれうううううう  
先そまつら富中になつたまゝまゝまゝまゝまゝ  
ようせつりばいせうあうううううううううう  
らうううううううううううううううううう  
あうのうにうううううううううううううう  
あうゆわがらやうううううううううううう  
てあまは九条あまは十二條ううううううう  
のりゆわがらやうううううううううううう

どしううのあつたはきやうつまゝくゆるやが殺るのそを  
一字ありしつゝまたまゝのまゝひくたうか神よ  
らりつゝえおらうそめうあたまふまゝそうたぬは  
そりぬたらしりそおらうゆらうやうううううう  
わりとゆわがらやう車一もたれうううううう  
先そまつら富中になつたまゝまゝまゝまゝまゝ  
ようせつりばいせうあうううううううううう  
らうううううううううううううううううう  
あうのうにうううううううううううううう  
あうゆわがらやうううううううううううう  
てあまは九条あまは十二條ううううううう  
のりゆわがらやうううううううううううう







Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style. There are some faint markings or corrections above certain words, possibly indicating specific terms or names. The page is numbered '111' at the bottom right.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page. There are some faint markings or corrections above certain words, possibly indicating specific terms or names. The page is numbered '112' at the bottom right.

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百



お中のことなほ







てすむの戒徳りて若乃のさ免まうりてし國出安  
 全の程ありたるに之の及もまらぬびつらと來と  
 とゆふまふ今とてさういふとやありあはは  
 きまゝといふはねばいふ乃天門よ一子と百の  
 とゆてい。檀特山の岩屋より雲山塔を摩訶  
 善妙院を摩訶善妙院の仙を思惟所私居地。妙  
 山傍海所育地全別。勝りうく乃みのりさうひ  
 となとてまゝしてとてすひすゆてはさあ。賢  
 若乃の仙術をまゝとくしてふんもやうありと  
 ちてまよりてい地抄をなつはあつてい。二五二百里  
 十里とゆてそつ。阿育山阿私山喜羅。阿國  
 妙見。善妙院。摩訶善妙院。摩訶善妙院。摩訶善妙院。

若乃の戒徳りて若乃のさ免まうりてし國出安  
 全の程ありたるに之の及もまらぬびつらと來と  
 とゆふまふ今とてさういふとやありあはは  
 きまゝといふはねばいふ乃天門よ一子と百の  
 とゆてい。檀特山の岩屋より雲山塔を摩訶  
 善妙院を摩訶善妙院の仙を思惟所私居地。妙  
 山傍海所育地全別。勝りうく乃みのりさうひ  
 となとてまゝしてとてすひすゆてはさあ。賢  
 若乃の仙術をまゝとくしてふんもやうありと  
 ちてまよりてい地抄をなつはあつてい。二五二百里  
 十里とゆてそつ。阿育山阿私山喜羅。阿國  
 妙見。善妙院。摩訶善妙院。摩訶善妙院。摩訶善妙院。

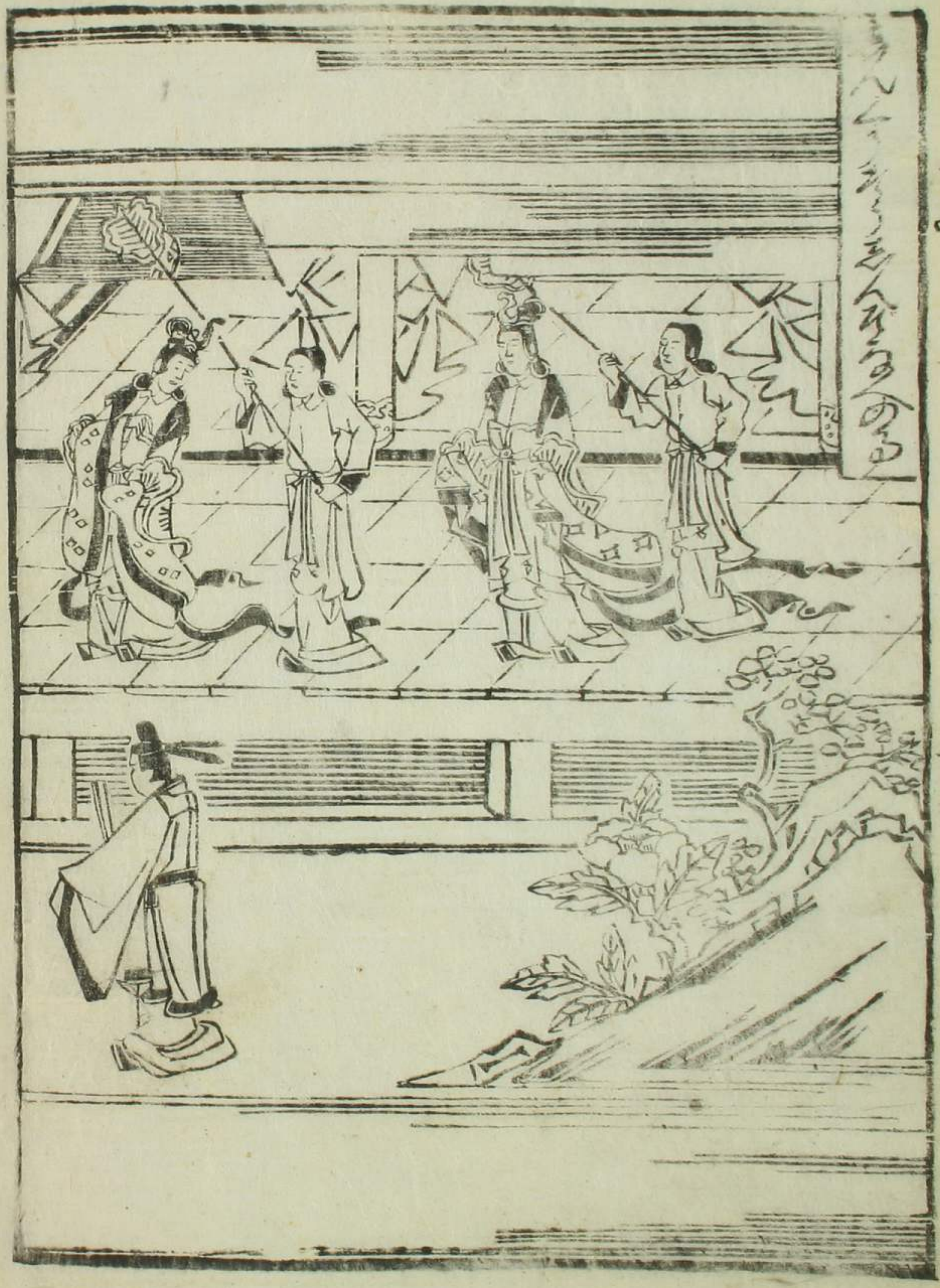




ゆんちんふんまき...とてえつらよよはまき...と婦ひてかき  
くいと香ゆあふみうごえのゆん海しとそればき  
まあわちありみあふくの男のふくを根んがる  
しれありそねくしとろ宮自うそまぶ新あ紙  
まにままみふりさうとさうをれと新あをさき  
まにまふまあぬのくそわかひん...とてあてのぶさう...  
あまのうさう...とさうしてあまふれとやりつけたりあま  
あまをまひしして野あふらわ...とさうたこのまき...あ  
あ林のあまきうそ...とて...は花あとあ  
ああ...とさうあまふらうそ...とあひとあはあ  
カ...とさうあまあふらうそ...とあはあ...とあ  
あ...とさうあまあふらうそ...とあはあ...とあ

あまのうさう...とさうしてあまふれとやりつけたりあま  
あまをまひしして野あふらわ...とさうたこのまき...あ  
あ林のあまきうそ...とて...は花あとあ  
ああ...とさうあまふらうそ...とあひとあはあ  
カ...とさうあまあふらうそ...とあはあ...とあ  
あ...とさうあまあふらうそ...とあはあ...とあ





八ノノノノノノノノノノ

四ノ

四ノ





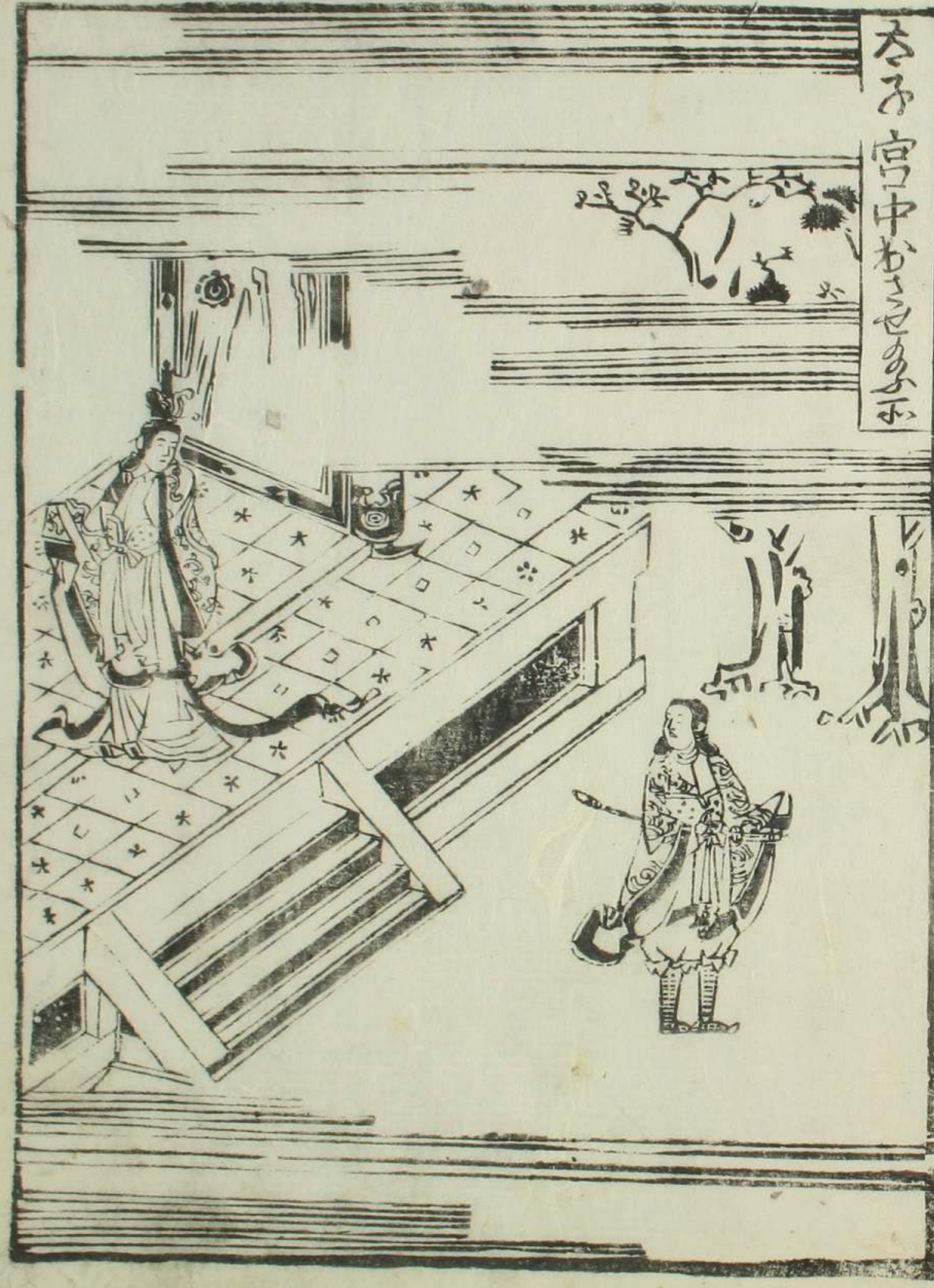






ありれ女んどもはなまふもやうんこひいさうしりくた  
 けり先をうつあひくまきづのりかろくたといひをえ  
 てあふがあましと入せんどもありと母こやうあめこま  
 ばみあいつせひよ入たよりあふがあらわうにちまを  
 ちしあをたらさまひるあたらあまこりそひりた  
 のあひの風物そあひこらうとゆひはうてあまの  
 花とあふあまあめあひとあふこまこまこまこま  
 あひかありしてものあまあひのまこまあひかんけを  
 くげらうとあふあひとあふあひとあふあひとあふあひ  
 第こまこまこまこまこまこまこまこまこまこまこま  
 たあひいさうしりくたあひいさうしりくたあひいさうしりくた  
 ちりあふあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

大子宮中おとせあふ



情もさうのうらむとみごとくさめくおもひのたのしみと  
移りせあるべきあまれしあつきのうらみあめく  
然ししてゆいませばさよひの雅教とひさしにさうい  
ごをちをたらしめりされど志乃清きあつきのうらみ  
たどりおろせあひつたにけりいんをさびしとほろび  
くじらうせあむつとねむをさりおもめたる世にゆ  
てに花もひものうらみやまのあつきのうらみ  
えやあつきのうらみとありなをよめたる母にさうい  
しあつきのうらみやまのあつきのうらみとありなをよめ  
これあつきのうらみやまのあつきのうらみとありなをよめ  
たりのあつきのうらみやまのあつきのうらみとありなをよめ  
あつきのうらみやまのあつきのうらみとありなをよめ

あつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
いとれたやあつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつ  
いびきやうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
こぐんはあつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつ  
げかよらうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
たりあつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
さげくはあつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつ  
へあつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
かつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
ごとまのうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
つきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら  
がりあつきのうらみやまのあつきのうらみやまのあつきのうら





めくにあまのちのめくたなゆたふゆめいふがいは  
 てごんぜんきしてわたりきりわつとけつと強よは  
 繁くうたなぬのりぐくまういありき舟よまのきを  
 ぼくとしてこまもくかきまのえごとゆくとつうせの  
 つらまきしけあまうる肩よとこあうたうごま  
 びけくま子らわつとふまうりてはつてしあうご  
 のひやうふまうたぬまのありきゆりてかあて  
 くれまてはゆりいあまのまうたぬまのありきゆり  
 八束八智の音阿は信結十六の相と修めしと  
 まやうたおまうは門通ののらありきまうたぬま  
 地乃海見いと世別りの修のしとまうたぬま



大子ろくや乃お付のま

さうのと、後(せう)で、因(いん)後(ご)果(くわ)位(ゐ)三(さん)味(み)とて、此(こゝ)は、其(その)の、乃(の)を、せむ、と、お  
なひ、な、ふ、そ、又、わ、る、門、ハ、智、智、必、満、三、保、性、空、の、が  
い、な、や、う、う、と、清、淨、々、ん、ご、の、新、好、あり、こ、と、さ、う、お、び  
け、う、の、と、お、あ、い、あ、う、ご、の、あ、し、ん、ご、ご、く、あ、ふ、み、の、ひ、み  
あ、ぞ、や、清、淨、々、ん、ご、の、善、法、う、と、て、三、摩、耶、耶、耶  
の、う、け、の、み、ら、無、ご、が、い、ひ、の、衆、の、る、ふ、お、清、身、一  
ろ、こ、ら、い、し、と、は、の、つ、ひ、ら、ご、う、ら、あ、さ、ま、し、ん、ご、う  
お、た、こ、わ、く、よ、く、し、ん、ご、し、と、あ、ら、み、の、た、ら、う、や  
一、ん、ご、ん、ご、は、あ、一、ん、ご、ふ、か、り、ま、い、ら、い、ら、衆、の、あ、が、れ、る  
揚、去、の、去、と、う、い、ま、あ、ら、し、ん、ご、と、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら  
ろ、の、い、ら、の、あ、り、い、し、と、あ、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら  
ら、い、け、か、ち、な、み、た、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、ら

七

八







のたんと終りあうしせむんがけがきよつてふとあつ  
ひる世あつち地のごとくすじ善根あらひいふも  
つれたとよぞにちりちりなるよとむつうありゆめ  
とくかかりしやせたるふりつあまらつこのこがひん  
飛つとぐみあり夫の父地を母あり海をよこせぬこ  
うとむのとうとに侍せりわづらつてあぶさそわれん  
く父のねんよちりもさむししとちりよあつておのひ  
けん文書育つ母のねんちりあつてまじまじとよふ  
ばのわさくしてびもこあつともうあまうだんちん  
つもとちりあつちりよすつとあつてつとせよすつとや  
のこまひりちりよあつとねんねも海かひを  
つねにれそあつたよこの海にあらふれぬとての縁うひの

つらあひつらしせむんてひましくしてさくはあそ  
あまらふあまらぶあつたのちんつとくさあつたは  
しせむのよとちんつとあつてはあつたあつたあ  
とねんせむあつとあつちのちんつとあつたあつたあ  
はつちつとあつちのちんつとあつたあつたあ  
とあつたあつちのちんつとあつたあつたあ  
まうちとあつちのちんつとあつたあつたあ  
くちつとあつちのちんつとあつたあつたあ  
あつちつとあつちのちんつとあつたあつたあ  
あつちつとあつちのちんつとあつたあつたあ  
あつちつとあつちのちんつとあつたあつたあ  
あつちつとあつちのちんつとあつたあつたあ  
あつちつとあつちのちんつとあつたあつたあ



礼ごとやりのむらげさるげくよかがりあし  
らうのよめまぢねどのいへぬまうりてあ  
あまの物乃らうのいまのまをくうまのれ  
笑しうのまをきりさるまのまのまのまのま  
他人とうらうまのまのまのまのまのまのま  
喜しく入たまふ

秋八相物信年

